

教職課程科目「道德教育の指導法」における授業実践 —学習指導案の作成と模擬授業を中心として—

内海崎 貴子

はじめに

2014年10月21日、中央教育審議会は、現行の小中学校「道德の時間」を「特別の教科」(仮称)道德とし、教員による記述式評価の導入を答申した。答申以前から文部科学省では、「児童生徒が、生命を大切に作る心や他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等の道德性を身に付けることは、とても重要で」とし、テレビドラマ「HERO」とのタイアップを実施するなど、道德教育の充実に向けた様々な取組を行っている。

また、2014年度から、全国の小中学校に『心のノート』を全面改訂した『私たちの道德』が配布されている。『私たちの道德』は、「児童生徒が道德的価値について自ら考え、実際に行動できるようになることをねらいとして作成」された道德教育用教材である¹⁾。さらに、千葉県²⁾、茨城県などでは、高校に道德の授業が導入されている。

このようなことを背景に、近年、教職課程／教職志望学生に対して、道德の授業を行える実践的な力量の形成が求められるようになってきている。本報告では、筆者が担当している教職に関する科目「道德教育の指導法」における授業の一部——学習指導案の作成と模擬授業——を紹介し、教職課程における授業実践のための参考資料を提供したい。

1. 2014年度「道德の指導法」シラバスと具体的な授業内容

筆者の勤務する大学では、幼稚園から高等学校までの教員養成を行っている。筆者は中高教職課程の教員として「教職入門」「教育原理」「生徒指導」などの科目とともに、「道德教育の指導法(中学校)」(以下、「指導法(中)」)と略記「道德教育の指導法(小学校)」を担当している。「指導法(中)」は2単位、3～4年次履修科目である³⁾。以下、2014年度「指導法(中)」のシラバスの一部を転載する。

《2014年度「道德教育の指導法(中学校)」シラバス》

【授業の概要(目的)】

道德教育の意義と方法に関する理解を深め、学校教育現場において道德教育を実践しえる能力を養うことを目的とする。具体的には、学習指導案の作成と模擬授業の実施、道德の授業実践を分析検討する。

【授業計画】

1. 道德とは何か? 道德教育とは何か?
2. 道德教育の歴史と「道德の時間」設置の経緯
3. 学習指導要領における道德-道德の目標と全体計画-
4. 道德性の発達過程と中学生の特徴
5. 「道德の時間」の学習指導案作成 ①. 学習指導案とは何か、学習指導案の書き方
6. 「道德の時間」の学習指導案作成 ②. 学級経営と指導計画の作成

- 7 「道徳の時間」の学習指導案作成 ③. 教材研究・資料選択と教材のタイプ
- 8 「道徳の時間」の学習指導案作成 ④. 授業方法の検討
- 9 「道徳の時間」の模擬授業実施 ①. 模擬授業の進め方、授業参観の記録の取り方
- 10 「道徳の時間」の模擬授業実施 ②. 模擬授業分析と討論、授業の再検討
- 11 「道徳の時間」の模擬授業実施 ③. 模擬授業再実施、改善目標の達成についての討論
12. さまざまな道徳の授業 ①. オーストラリア人権教育（小学校）VTR 視聴、授業目的、授業方法の解説
13. さまざまな道徳の授業 ②. 差別体験授業の実施、授業目的、授業方法の解説
14. 道徳教育における教師の役割－家庭・地域との連携－
15. 授業全体のまとめ、道徳教育の可能性について話し合おう

【成績評価の方法】

学習指導案 60% 授業参観の記録 20% リアクション・ペーパー（2回）20%

筆者は、基本的に上記シラバスにしたがって授業をすすめているが、履修者数や履修者の学年構成、道徳教育に関わる社会的事象等によって実際の授業内容およびその順序、使用する資料、授業方法を変えることもある。例えば、当該科目の単位認定条件として「学習指導案」の提出は必須であるが、模擬授業は履修者数により実施の可否を判断している。履修者数が50名を超えた場合、1週間で履修者全員の指導案にコメントを記入・返却して、翌週に模擬授業を実施することは難しい。そこで、毎年5月の履修者確定後、シラバスを基本にその年度の学習計画を再作成している。

2014年度の「指導法（中）」の履修者数は25（4年生2名、3年生23名）名で、すでに教育実習を終了した学生が2名、履修中に教育実習を行う学生が6名⁴⁾であった。したがって、模擬授業は実施可能となった。また、前述したように『私たちの道徳』が小中学校に配布されていること、主な実習先である千葉県内の小中学校では千葉県教育委員会作成の「道徳教育映像教材」⁵⁾を用いた授業が行われていることを勘案して、以下のように2014年度も授業計画を再作成した。

≪2014年度「道徳教育の指導法（中学校）」授業計画≫

道徳教育の指導法：2014年度授業計画（中学校）

| 回 | 月日 | 内容 | 備考 |
|---|-------|--|---------|
| 1 | 9.19 | オリエンテーション | |
| 2 | 9.26 | キーワード「ジェンダー」について | グループワーク |
| 3 | 10.3 | 私にとって道徳とは何か ① 道徳とは何か ② 道徳は教えられるのか | グループワーク |
| 4 | 10.10 | 学校で学んだ道徳を整理してみよう ① 「道徳の時間」設置の経緯 ② 学習指導要領における道徳 | |

| | | | |
|----|-------|--|--------------------------------|
| 5 | 10.17 | もし、私が道德を教えるとしたら ① 学習指導案の作成 - 学習指導案とは何か ② 指導案の書き方 | |
| 6 | 10.31 | ③ 授業方法と教材選択の仕方、教材研究 | |
| 7 | 11.7 | 道德の授業研究 DVD「NHK 道德ドキュメントモデル授業 ③人とつながる・いのちの大切さ」視聴と学習指導案の検討 | |
| 8 | 11.14 | 道德の授業体験 ① 差別体験授業 ② 授業分析および討論 | 「差別体験授業参加記録」(11.21 提出) リアベ① |
| 9 | 11.21 | 道德性の発達を理解しよう | 学習指導案提出 |
| 10 | 11.28 | 千葉県教育委員会道德教育映像教材「いつのまに・・・」と実践授業映像の視聴 授業分析および討論 | グループワーク リアベ② (12.5 提出) |
| 11 | 12.5 | 模擬授業実施の準備 授業参観記録のとり方 指導案コメント | |
| 12 | 12.12 | 模擬授業の実施 | 「授業参観の記録」(12.19 提出) |
| 13 | 12.19 | 「授業参観の記録」に基づいた授業分析と討論 | グループワーク |
| 14 | 1.9 | セクシュアル・マイノリティと学校教育 人権教育としてのジェンダー平等教育 | リアベ③ (1.16 提出) |
| 15 | 1.16 | 道德の授業の可能性と限界を話し合おう | グループワーク |

*リアベは2回以上提出

本年度、実際の授業はほぼ上記計画通りに進めた。学習指導案作成に向けての具体的な指導は、第4回の学習指導要領の学習から始まる。この回では、次回以降の指導案作成に向けて、履修者の経験してきた「道德の時間」の授業を学習指導要領の観点から振り返り、道德の内容項目を確認する。同時に、履修者に対して文部科学省のHPから『私たちの道德』をダウンロードし、ファイリングしておくことを指示した。

第5回では、これまでの履修者が作成した学習指導案を例示しながら、指導案の構造、資料の取り扱い方、授業展開の仕方、板書計画の作成、補助資料としてワークシートや映像などの紹介を行う。この回から数回にわたり指導案作成のための資料として、学習指導要領道德の内容項目(4領域)ごとに、これまでに提出され

た学習指導案を配布していく。本年度は、4領域ごとに2種類、合計8種類の学習指導案を配布した。

第6回では、「道德の時間」の授業で使用する「教材研究」を行った。『私たちの道德』の他、各自で使用したい教材をスマートフォンやタブレットを利用して検索させ、各自でワークシート1を用いた作業を行い、その後、ワークシート2を使いながらグループ学習を行った。以下はワークシートの内容項目である。

《ワークシート1:

「学習指導案作成のための教材研究」》

- ①教材名
- ②概要
- ③含まれる道德的価値(ねらいとする価値)

- ④学習指導要領における該当項目
- ⑤教材選択の理由
- ⑥教材にかかわる生徒の実態
- ⑦授業のねらい (授業の着地点)
- ⑧導入の工夫・補助資料・授業方法など

《ワークシート2:

「学習指導案作成に向けてのグループワーク」》

- ①メンバーに選択した教材の概要を説明し、指導案の中でどのように使いたいと考えているか、話しましょう。
- ②メンバーが選んできた教材について、感想や意見を述べるなどの情報交換をしましょう。
- ③メンバーからの情報を参考に、自分の選択した教材について再考してみましょう。選択した教材を使用するかどうかの判断は、最終的には自分で決めてください。「学習指導案作成のための教材研究シート」に記入してみましょう。

第7回は映像資料の視聴とその資料を用いた学習指導案の分析・検討、第8回は道徳の授業体験、第9回に道徳性の発達の講義を行った後、第10回では道徳の授業実践映像の視聴と学習指導案の確認及び授業分析・討論を行った。この間、筆者は第9回の授業時に提出された学習指導案の評価を行い、コメントを記入するとともに、第12回での模擬授業を担当する候補者を選定した。

第11回では履修者に学習指導案を返却し、グループでメンバーの作成した指導案について情報交換を行った。また、次回の模擬授業に向けて、模擬授業への参加及び参観の仕方、「授業参観の記録」(記述式ワークシート)の取り

方を説明した。なお、履修者には記入されているコメントに基づいて指導案の改善を行い、最終授業時まで再提出することを指示した。以下、「授業参観の記録」の内容項目を列挙した。

《授業参観の記録》

授業参観の記録「道徳」

授業日時 月 日 () 第 校時

場所 中学校

年 組 名 (男子 名、女子 名)

実習生

授業参観記録者氏名

主題名 学習指導要領指導内容項目

参観における視点

1. 指導案について

- 1) 学習のねらいがはっきりしているか
- 2) 生徒の道徳性の実態分析ができているか
- 3) ねらいに関わる生徒の課題を明確にしていたか
- 4) 指導過程の組み立てはよいか

2. 資料について

- 1) ねらいにあった資料であったか
- 2) 学習意欲を盛り上げるための資料であったか
- 3) 生徒一人一人が資料を読み取ることができたか
- 4) 課題を持って資料を読み取っていたか
- 5) ねらいと直接関連する資料の場面を使い切ることができたか

3. 発問と助言指導

- 1) 発問の意図が明確にされていたか
- 2) いつ、どこで、何を、誰が…と言った資料の言葉探しになるような発問が多くなかったか
- 3) 主人公の気持ちや行動の根拠にある考えに気づかせる発問を工夫したか
- 4) 自分の生き方を省みるような発問を工夫したか

- 5) 生徒の多様な考え方を引き出す発問を工夫したか
 - 6) 生徒の考えをよく聞いて一人一人の発言を受け止めていたか
 - 7) 生徒の発表を賞賛したり、激励していたか
 - 8) 生徒相互の話し合いを進める助言があったか
4. 授業への評価

- 1) ねらいとする内容項目が達成されたか
 - 2) 考える筋道や違いの分かる板書を工夫したか
 - 3) 個別指導の配慮がなされていたか
 - 4) 自己を高める指導が工夫されていたか
 - 5) 適切な説話が用意されていたか
5. その他・気づいたこと
- 1) 授業の流れは適切であったか。
 - 2) 授業方法の工夫が見られたか
 - 3) もし自分がこの学習指導案で授業を行うとしたら、どのように取り組みたいか

2. 学生による模擬授業の実施と授業分析・討論

本年度の模擬授業は、第12回目の授業で以下

の通り実施された。生徒役の学生には「授業参観の記録」をとり、次週授業時までにとめておくことを指示した。また、授業者の希望により、指導案は授業終了後配布することとした。以下、模擬授業の概要と学習指導案を示す。なお、紙数の都合上、模擬授業実施後の修正を加えた学習指導案と修正前・後の板書計画を掲載する。

《模擬授業概要》

- 実施日:2014年12月12日(金)5時限(16:10~17:40)
- 授業者:中高の英語教員免許状取得予定者3年生
- 生徒役:履修者24名
- 授業時間:16:30~17:20(予定)の50分間
- 学習指導要領内容項目:1. 主として自分自身に関わること (2)より高い目標をめざし、希望と勇気を持って着実にやりぬく強い意志を持つ。

道德学習指導案(修正版)

指導教諭:内海崎貴子先生
実習生:

1. 日時:平成26年 月 日()
2. 対象: 中学校3年 組(男子 名、女子 名)
3. 主題名:自分の決めた物事に対して努力をし、最後までやり抜く強い意志
4. 主題設定の理由

1) ねらいとする価値

どの生徒も、「自分で何かしらの目標を立て、そこに向かって努力をする」という経験をしてきているだろう。しかし、その努力の過程では、「うまくいくのか」「これで正しいのか」など不安に思うことが多々ある。また、努力した結果が自分の思い描いたものではなかったとき、「自分のやってきたことが意味のなかったものであった」「努力しても無駄」など負の感情を抱いてしまいがちである。しかし、良い結果なら自分の自信に、思い描いていたものと異なる結果ならその過程での反省を次の機会に活かせるなど努力して得た結果は、どんなものであっても自分のためになるものである。また、努力をしなければ、自分で思い描く未来に少しも近づけることができない。

学校にいる間も、また、社会に出てそれぞれ自分なりの道に進んでからも、必ずやり遂げたいことがでてくる時が来る。そんなときに、自分の思っているように進まないからといって諦めるのではなく、努力をしている過程がづらいと不満に思うのでもなく、今行っていることがどんな形であれ自分のプラスになるという前向きな気持ちを持って最後までやり続けることが重要である。このようなことから、自分の決めた物事に対して努力をし、最後までやり抜く強い意志という主題を設定した。

2) ねらいに関わる生徒の実態

男子 名、女子 名のクラスである。生徒たちは受験を控え、自分たちの努力(日々の勉強)が成果

につながっていない、結果としてうまくいくのか分からないなど様々な不安を抱えて生活している。今後、高校に進学したり、就職したりと環境が変わっていても、自分の決めたことを最後までやり抜くことや努力をすることが大切であるということ、また、どんな結果であれその努力は何かしらの形で自分の実になるということは変わらない。生徒たちは、今自分が取り組んでいることの先が見えなくても、自分を信じて努力をすることの大切さを理解する必要がある。

3) 資料とそのおさえどころ

資料1) 私たちの道徳「理想通りにいかない現実もある、

☆目標達成に向けての努力の過程はつらく大変なものであり、努力をしても思い描いた結果にならないときもある。

☆一流と呼ばれている人たちでも同じ苦しみを味わっている。

資料2) フィギュアスケート元日本代表 高橋大輔氏の言葉

☆資料1の具体例として用い、誰もが成功していると認める華やかな世界の人でも弱い、後ろ向きの部分があることを理解させる。不安を抱える生徒と同様に、一流の人でも不安は抱えている。

☆なぜ、不安な中で努力をしているのか。

資料3) 『置かれた場所で咲きなさい』渡辺和子著 幻冬舎

☆人生では、順風満帆に行くよりも、失敗があり、苦勞の多い方が発展の可能性がある。

☆苦しみを経験した後は必ず楽になり、笑える日になる。

☆味わった苦しみが人を強くする。

☆目標達成への道のりの中では、倒れても立ち上がって歩き続けることが大切である。

資料4) BEAUTIFUL DAYS 歌詞カード

☆資料1.2.3と授業の内容を踏まえ、この歌詞を通して不安に思っていることが少しでも軽減され、最後までやり抜くという気持ちになるきっかけになればいい

4) なぜこの価値を設定したのか

「努力をしても無駄だ」と感じている人の割合は、年々増加しているという。しかし、努力をしなければ何も始まらない。また、目標に向かって努力をしている過程での苦しさがあるからこそ、その目標が達成されたときに「嬉しい」「楽しい」と思えるのである。こういった事実を踏まえ、どんな状況にいても自分で決めた物事に対して努力をすることの大切さを、なぜ努力をする必要があるのかを考えることが必要であると考え、この主題を設定した。

5. 本時のねらい

今、自分が取り組んでいることの結果（先）が見えなくて、苦しい思いをしていますが、自分を信じて努力し続け、最後までやり抜く意思を持たせる。

6. 指導の流れ（下線は修正部分）

| | 学習内容と教師の働きかけ | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 |
|------|--|--|---|
| 導入5分 | <p><u>「まずはみなさんにこれまでの様々な経験を振り返ってもらいたいと思います。色々思い返してみてくださいね。」</u></p> <p>発問：<u>「では、さっそくみなさんに一つ聞いてみたいと思います。みなさんは、これまでの経験の中でたくさんの努力をしてきたと思います。では、努力とは何のためにするのでしょうか？みなさんは、何のために努力をしてきましたか？部活、勉強どんなことでもいいですよ。」</u></p> <p>発：「ほとんどの人が自分のために自分で決めた目標などを達成したり、叶えたりするために必死になって努力をしますよね。」</p> <p>資料1配布 プリントの説明「今配ったプリントを見て下さ</p> | <p>反応：「できないことをできるようにするため」「目標を達成する(夢をかなえる)ため」</p> <p>「自分の可能性を広げるため」</p> | <p>あくまで導入として扱い、深く考えすぎないようにする。</p> <p>部活動など生徒にとって身近なものをもとに考えさせる。</p> |

| | | | |
|-------------------|--|--|--|
| <p>展開 37分</p> | <p>い。「理想通りにはいかない現実もある」というところです。(該当部分を読み上げる。)ここに書いてあるように、努力をしている過程は決して楽しいものではありません。また、努力をしても自分が思っていた通りの結果に必ずなるというわけでもありません。そうすると、努力をしてもこれでいいのかなという不安な気持ちになってしまいますよね?では、なぜ努力をすることが大切だといわれるのでしょうか?今日、みなさんと考えていくのはこれです。努力。今日は努力について考えていきましょう。」</p> <p>引き続き資料1 プリントの説明「もう一度プリントを見て下さい。(続きを読み上げる。)各分野の第一線で活躍する人も同じように苦い経験や挫折を味わいながらそれを乗り越えてきたという風に書かれていますね。みなさんがよく知っているスポーツ選手もこの言葉と同様の経験をし、その経験から努力をすることが大切だということを言っています。」</p> <p>高橋大輔氏の写真を見せる。</p> <p>発:「このスポーツ選手を知っていますか?」</p> <p>(「高橋大輔さん」と板書)</p> <p>「彼は、フィギュア元日本代表の高橋大輔選手です。」</p> <p>発:「では、彼はどんな選手生涯を送ってきたか知っていますか?」</p> <p>「彼は、もう競技には復帰できないと誰もが考えるような大けがをしたことがありました。しかし、努力をすることにより、選手として復帰し、オリンピックやその他の大会で多くのメダルを獲得してきました。」</p> | <p>反:「知っている」 「知らない」 「フィギュアスケートの高橋大輔」など</p> <p>反:「知っている」 「知らない」</p> | <p>前半部分「各分野の～」の前までを扱う。</p> <p>『努力』と板書する。</p> <p>同じ資料の後半部分を用いる。</p> <p>「知っている」「知らない」どちらの答えが出るにしても、答えが出てから黒板に「高橋大輔」の名前を書く。</p> <p>細かい競技人生を話すのではなく、1度大きな挫折を味わっていることを中心に話す。</p> |
|-------------------|--|--|--|

「彼は、この大けがを負い、復帰に向けてリハビリをしていた時だけでなく、常に日々練習を重ね、努力をしてきました。そんな彼はこんなことを言っています。」

資料2前半部分を見せる。

発：『「自信はないし、弱音はしょっちゅう吐出し、びびったりもする。』(資料2前半部分を黒板に貼る。)では、そんなにつらく、逃げ出したくなる状況でなぜ努力をし続けたのでしょうか？みんなはなんでだと思っ？』

資料2後半部分を見せる。

「彼はそのあとにこの言葉を続けています。『やっぱり自分は弱いですけど、だからそれを埋めようと、練習をいっぱいする。』(資料2後半部分を黒板に貼る。)」

「みなさんも努力をしている間にうまくいか、など不安に感じることもあると思います。でも、トップスケーターと言われている高橋選手でも私たちと同じように不安に駆られることがあるということが分かりますよね。でも、弱さがあることが悪いというわけではありません。自分の弱さを受け入れた上で、それでもよりよい結果を目指して努力することが大切なのです。そうする事で彼は自分の望む結果につなげることができたのです。」

「そうはいつでも、不安な気持ちになるとどうしても努力をやめたくなくなってしまいますよね？では、次にもう一枚プリントを配るので、それをもとにしてなぜ努力をすることが大切だと言われているのか考えてみましょう。」

資料3配布

「では、今配ったプリントを見て下さい。」

資料3の説明をする。

反：「メダルを取りたかったから」「諦めたくなかったから」「自分に負けたくなかったから」「スケートが好きだから」など

『～びびったりもする』までを扱う。

それぞれの意見を板書する。言葉通りに書くのではなく、要点をつかんで書く。

『やっぱり～』を扱う。

雲の上の人と思われている人でも同じように弱気になる事があるということを理解させる。

| | | |
|--|---|---|
| <p>「では、この文章を読んでみますね。(文章全てを読み上げる。)さて、みなさんには、この文章を読んで、なぜ努力をすることが大切なのかを考えてもらいたいと思います。少し時間を取るの、もう一度自分で文章を読み返して、裏に書いてある一つ目の質問に答えてみてください。」</p> | | <p>生徒たちが考えている間にタイムアウトなどの板書を進めておく。</p> |
| <p>(もう少し時間が欲しい人などを確かめる。)</p> | | <p>生徒たちが考えている間、机間巡視をし、様子を見てヒントを出したり、生徒の考えをチェックしておく。</p> |
| <p>「では、さっそくみなさんの考えを聞いていきましょう。」</p> <p>発:「どんな人生が自分を強くし、発展させてくれると言っていましたか?」</p> | <p>反:「山あり谷ありの人生」「楽しいことだけでなく、失敗も挫折も味わう人生」「苦勞の多い人生」など</p> | <p>出てきた意見を全部板書する。なるべく、同じような意見を同じところに書く。</p> |
| <p>「では、今の質問を踏まえて、この文章でみなさんが重要だと思うことばや文、もしくは著者である渡辺さんが一番言いたいであろう箇所に線を引いてみてください。」</p> | | <p>生徒の作業中は机間巡視をする。</p> |
| <p>発:「では、みなさんはどんなことば、どんな箇所に線を引きましたか?」</p> | <p>反:「立ち上がる時の方が発展の可能性がある」「必ず下り坂になる」「痛みが人を強くする」など</p> | <p>答えを黒板に書く。</p> |
| <p>「渡辺さんが伝えたいことを考えてみたところで、裏の2つ目の質問を見てください。□に入る言葉を考える。この□にはこの文章を一言でまとめた言葉が入ります。みなさんが今線を引いた箇所をもとに考えてみてください。みなさんは、ここにはどんな言葉を入れますか?」</p> | | |
| <p>発:「では、□の中にはどんな言葉を入れてみましたか?」</p> | <p>反:「つらいと思っている経験が自分を強くしてくれる」「失敗も自分の為になる」「つらいときがあるからこそ楽しい日々がある」など</p> | <p>答えを黒板に書き(貼り)、その言葉に補足して資料3を通して一番伝えたいことを話す。</p> |
| <p>「それぞれ色々な言葉を考えてくれましたね。みなさんが考えてくれた言葉はれも入れるこ</p> | | <p>生徒たちが考えた言葉もまちがっていないということを忘れず</p> |

| | | |
|--|---|--|
| <p><u>「では、この文章を読んでみますね。(文章全てを読み上げる。)さて、みなさんには、この文章を読んで、なぜ努力をすることが大切なのかを考えてもらいたいと思います。少し時間を取るので、もう一度自分で文章を読み返して、裏に書いてある一つ目の質問に答えてみてください。」</u></p> | | <p><u>生徒たちが考えている間にタイトルなどの板書を進めておく。</u></p> |
| <p>(もう少し時間が欲しい人などを確かめる。)</p> | | |
| <p><u>「では、さっそくみなさんの考えを聞いていきましょう。」</u></p> | | |
| <p>発:「どんな人生が自分を強くし、発展させてくれるかと言っていましたか?」</p> | <p>反:「山あり谷ありの人生」「楽しいことだけでなく、失敗も挫折も味わう人生」「苦勞の多い人生」など</p> | <p>出てきた意見を全部板書する。なるべく、同じような意見を同じところに書く。</p> |
| <p><u>「では、今の質問を踏まえて、この文章でみなさんが重要だと思うことばや文、もしくは著者である渡辺さんが一番言いたいであろう箇所に線を引いてみてください。」</u></p> | | <p><u>生徒の作業中は机間巡視をする。</u></p> |
| <p>発:「では、みなさんはどんなことば、どんな箇所に線を引きましたか?」</p> | <p>反:「立ち上がる時の方が発展の可能性がある」「必ず下り坂になる」「痛みが人を強くする」など</p> | <p>答えを黒板に書く。</p> |
| <p><u>「渡辺さんが伝えたいことを考えてみたところで、裏の2つ目の質問を見てください。□に入る言葉を考える。この□にはこの文章を一言でまとめた言葉が入ります。みなさんが今線を引いた箇所をもとに考えてみてください。みなさんは、ここにはどんな言葉を入れますか?」</u></p> | | |
| <p>発:「では、□の中にはどんな言葉を入れてみましたか?」</p> | <p>反:「つらいと思っている経験が自分を強くしてくれる」「失敗も自分の為になる」「つらいときがあるからこそ楽しい日々がある」など</p> | <p>答えを黒板に書き(貼り)、その言葉に補足して資料3を通して一番伝えたいことを話す。</p> |
| <p><u>「それぞれ色々な言葉を考えてくれましたね。みなさんが考えてくれた言葉はれも入れるこ</u></p> | | <p><u>生徒たちが考えた言葉もまちがっていないということを忘れず</u></p> |

| | | |
|-------------------|--|--------------|
| ま と め 8分 | <p><u>とができると思うし、どれもいい言葉だと思</u> <u>います。では、渡辺さんはどんな言葉をいれて</u> <u>いたのか見てみましょう。」</u></p> <p><u>黒板に答えを貼る。</u></p> <p><u>「渡辺さんが書いた言葉は『つらい日々も笑え</u> <u>る日々につながっている』です。」</u></p> <p><u>「この文章、つらい日に関しては書かれていま</u> <u>したが、それがなぜ笑える日につながるのかま</u> <u>でははっきりと書かれていませんよね？みな</u> <u>さんも不思議に思っていると思います。この言</u> <u>葉がどういうことかという・・・ここでは、</u> <u>「つらい日々を乗り越えることが自分を強く</u> <u>してくれる」「苦しみを超えると必ず下り坂に</u> <u>なる」などと書かれていたと思います。苦しい</u> <u>時を乗り越えてこそ人は強くなれるし、乗り越</u> <u>えたからこそうれしいという風に考えられる。</u> <u>うれしいと思うと私たちは自然と笑顔になり</u> <u>ますよね？だからこそ、渡辺さんはこの言葉を</u> <u>当てはめたのではないのでしょうか。</u> <u>『つらい日々も笑える日につながっている』</u></p> <p>「つらい日々を乗り越えることが自分を強くし てくれます。つらいと思っていたことは自分の 経験や知識とすることができる。そして、それ を活かして次にチャレンジすることができる。 一度経験した苦しいことは、次に同じことにぶ つかったときの自信になるのです。」</p> <p>資料4 配布</p> <p><u>「さて、さっきの『置かれた場所で咲きなさい』</u> <u>の文章を読んで、なぜ努力をするのか、今後苦</u> <u>しくなったときに自分がどう行動していくか</u> <u>などそれぞれ考えるところがあったと思いま</u> <u>す。」</u></p> <p>「今配ったのは、SPYAIR の BEAUTIFUL DAYS という曲の歌詞です。では、歌詞を読ん</p> | <p>に伝える。</p> |
|-------------------|--|--------------|

| | | |
|--|--|--|
| <p>でみてください。』</p> <p>「自分の行動がうまくいくのか不安になってしまうことが必ずあると思います。それがいけないわけではありません。でも、やってみなければ何も始まりません。また、不安になったとしてもその努力で得たことはみなさんにとって何かしらの強みとなるはずです。自分の信じた道をそのまま進んでください。そして、何事にも前向きにあきらめずに挑戦してください。では、最後にこの曲を聞いてください。」</p> <p>BEAUTIFUL DAYS を流す。</p> | <p>歌詞を見ながら、曲を聴くと同時に努力をすることの大切さ、そしてこれからどう自分が取り組んでいくかを考える。</p> | <p>不安に思うことが悪いことではないということ、不安に思ったとしても自分の信じたこととを最後までやり抜く意志をもつこと、そしてやり抜いた先がどんな結果であれ、自分を強くしてくれるということを伝える。</p> |
|--|--|--|

7. 板書計画 (修正後)

Q: □に入れた言葉はなに??

- ・ 失敗も自分の為になる
- ・ つらいと思っている経験が自分を強くしてくれる
- ・ つらいときがあるからこそ楽しいときがある

Q: □が大事な言葉キーワードだと思った?

- ・ 必ず下り坂になる
- ・ 痛みが人を強くする

Q: どんな人生が自分を強くし、発展させてくれるのか?

- ・ 山あり谷ありの人生
- ・ 楽しいことだけでなく、失敗も挫折も味わう人生
- ・ 苦勞の多い人生

高橋大輔氏の写真

『努力』

なぜ努力をしたのか?

- ・ メダルを取りたかったから
- ・ 諦めたくなかったから
- ・ 自分に負けたくなかったから

高橋大輔氏の言葉

前半部分

高橋大輔氏の言葉

後半部分

ノートダム清心学園理事長 渡辺和子 著

『置かれた場所で咲きなさい』

つらい日々も、笑える日につながっている

7. 板書計画 (修正前)

□に入れた言葉はなに??

- ・ 失敗も自分の為になる
- ・ つらいと思っている経験が自分を強くしてくれる
- ・ つらいときがあるからこそ楽しいときがある

□に入れた言葉はなに??

- ・ 山あり谷ありの人生
- ・ 楽しいことだけでなく、失敗も挫折も味わう人生
- ・ 苦勞の多い人生

高橋大輔氏の写真

『努力』

なぜ努力をしたのか?

- ・ メダルを取りたかったから
- ・ 諦めたくなかったから
- ・ 自分に負けたくなかったから

高橋大輔氏の言葉

前半部分

『置かれた場所で咲きなさい』

どんな人生が自分を強くし、発展させてくれるのか?

つらい日々も、笑える日につながっている

実際の模擬授業は16:30～17:18で行われ、導入5分(予定8分)、展開33分(予定34分)まとめ10分(予定8分)となり、ほぼ予定通りに展開した。板書計画に示されている発問は、短冊として掲示された。資料3配布後、生徒の作業中に1回、机間巡視が行われた。

模擬授業実施後、実際の授業と板書を中心に、生徒役の学生に初発の感想を述べてもらい、授業者とともに意見交換を行った。その際出された意見の主なものは、以下の通りである。

- 授業の流れはスムーズで適切だと思ったが、メリハリがあまりなく、淡々と授業が流れていったような感じがした。
- 考察の時間がしっかりと設けられており、落ち着いて考えることができるようになっていた。
- 板書で、画用紙に前もって発問や高橋選手の言葉を書き添えてきたのは良かったが、目立たせる工夫がされていないので、何が質問で、どれが強調したい文なのか一目で理解することができなかった。チョークの色を変える、枠で囲むなど見て分かりやすくした方が良かった。
- 一番印象的だったのが、意見が出ずらい時もむやみに指名せず、発問の仕方を変えたり、補足したりして、生徒自ら意見を出すように促していたところである。道徳なので、自分の意見を自由に言える環境をつくることは重要だと思った。
- 資料間のつながりが薄く、唐突に次の資料に行ってしまう印象を受けた。前の資料の主旨を結論付けたくうえで次に進むか、もしくは前

後の資料のつながりを示すかしないと、授業の流れが滞ってしまう。

模擬授業の次週、第13回目の授業では、履修者は3～4名のグループに分かれ、使用した学習指導案と「授業参観の記録」を見ながら、意見交換を行った。その際、「授業参観の記録」から以下の3点について話し合い、全体に報告するように指示した。各項目に挙げられた意見のいくつかを紹介する。このような活動を経て、履修者全員が最初に提出した指導案を再構成し、最終授業時に提出する。前掲の学習指導案も同様の活動を経て、修正後提出されたものである。

1) 授業の流れは適切であったか

- とても落ち着いて授業ができていて、話すスピードや声の大きさも適切であった。声の抑揚をつけて大切なところを強調したり、生徒の考えが出ない時に補助発問をしたりすると、よりメリハリが出て、流れもスムーズになると感じた。
- 授業が淡々と進んでいて、あまりメリハリがなかったように感じた。そのため、中心発問も発見しづらかった。内容としては良かったので、一番伝えたいことがもっと明白になるように展開した方がよいのではないかな。

2) 授業方法の工夫が見られたか

- 有名人を紹介したり、読み物や歌を使用していて、生徒の興味がなくならないような工夫がされていた。板書で間延びしないように、短冊を利用していた。

- さまざまな資料を使用して、有名なスポーツ選手の例を取り上げることで、生徒たちにより具体的に考えさせることができたのではないか。

3) もし自分がこの学習指導案で授業を行うとしたら、どのように取り組みたいか

- グループワークや周りの生徒と関わる場面を設けたい。
- もう少しワークシートを増やす。導入時、生徒に自分自身を振り返らせて、自分を見つめなおしてから展開に入り、最後に授業を通してどんな事を思ったか、これから何を心がけていきたいかを書かせ、自己を高めさせたい。
- 最後に「つらい日々も、笑える日につながっている」と張り出されたが、その前までの展開で「努力は笑顔につながる」ということに触れられていなかったもので、まとめとして繋げるのが難しい。なので、この部分を丁寧に展開したい。
- まとめで音楽を聞かせる場合、まず歌詞カードを配布し、生徒に自分の好きな言葉を見つけさせてから音楽を流したい。

おわりに

学習指導案の作成、模擬授業への参加と討論、指導案の再作成を通して、履修者は「道徳の授業」の難しさを実感する。本来なら、この実感を出発点にさらに教材研究と指導法の学習をすすめる、授業の実践力を養成するべきであろう。この点について、わずか2単位の授業でどのように対応していくか。今後の課題である。

注

- 1) 文部科学省 HP http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/
- 2) 千葉県では「心の教育推進キャンペーン授業公開」として、幼稚園から高校までの「道徳」の授業を公開している。千葉県教育委員会 HP <http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/doutoku/26jugyokoukai.html>
- 3) 勤務先の教職課程では、教育実習および教育実習受講資格および条件との関わりから「教職に関する科目」の履修年次を指定している。主な科目の履修年次は、「教職入門」1年次後期、「教育原理」2年次前期、「教育心理学」2年次前期、「教科教育法Ⅰ」2年次前期、「教科教育法Ⅱ」2年次後期、「教科教育法Ⅲ」3年次前期、「教科教育法Ⅳ」3年次後期、「特別活動の理論と方法」2～3年次、「生徒指導」3～4年次である。なお、教育実習受講資格および条件の中に、「3年次終了までに『教職に関する科目』のうち、原則として『教職入門』、『教育原理』、『教科教育法Ⅰ・Ⅱ』、『特別活動の理論と方法』はすべて『B以上』で修得しなければならない。」がある。
- 4) この6名は児童教育学科の学生で、3年次で小学校3週間実習を行う。
- 5) 使用した「道徳教育映像教材」は、中学校生徒用ドラマ教材「いつのまに・・・」である。この教材には、資料の解説、資料を活用した複数の学習指導案、学習指導案に基づいた授業実践の映像が含まれている。詳細は、千葉県教育委員会 HP <http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/doutoku/eizou-24.html> 参照。

謝辞

本稿作成にあたり、資料として学習指導案の使用を承諾してくれたIさん、討論の感想や「授業参観の記録」の掲載を了承してくれた履修者の皆さんに深謝致します。